

# 巻 頭 言

長崎短期大学 学長

安 部 恵 美 子

日本の最西端に位置するわが長崎短期大学のミッションは、今後、生産年齢人口が大幅に減少していく地方を支える次世代をしっかりと育てて社会に送り出すことにあります。短期大学が主に育てるのは、地域の良質な中堅人材です。

このミッションを達成するためには、各学科・専攻の教育課程や教育内容をより向上・充実させなければなりません。具体的には、地域の課題等への認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するための教育を構築していく必要があるのです。

当然のことながら、教育活動の質は教員の個人的能力に左右されます。

授業や学生指導に関する「教育力」、そして、自らの専門分野についての「研究力」の2つが教員の能力の代表的なものです。その他にも、地域社会に対する「貢献力」、所属学科等の学務活動への「参画力」があります。

短期大学の教員は、多様な能力とバックグラウンドを持つ学生の「教育」に、多大の時間を割かざるを得ない状況にあります。が、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成する(学校教育法第108条)」と法に規定された短期大学に在職する教員にとって「研究」は重要な職務です。短期大学が「大学」であり、「高等教育機関」であるためには、研究する教員集団(faculty)の存在が不可欠なのです。また、学生の自ら学ぶ姿勢を育てるためには、教員自らが学び続ける主体としてのモデルとならなければ、真の大学教育を実践することは出来ないと思います。

さらに、教育活動の質は、教員集団(faculty)の統制力(まとまり)にも大きく左右されます。共同研究などを通じて教員の力を結集し連携を図ることも求められています。

さて、本年度も研究紀要が上梓されました。どの論文からも執筆担当教員の研究への熱意を充分に感じとることができます。平成18年度から実施してきた「研究費傾斜配分制度」を利用した、教育活動の中で積み上げた実践的研究も充実しつつあり、長崎短大ならではの研究といえるものも増えてまいりました。

ここに積み上げた各教員の研究業績に対し、学長として敬意を表すると共に、その研究の成果が学生の教育に還元されることを心から期待します。

最後になりましたが、なかなかかどらぬ原稿の集約状況に心を砕きながら、編集作業に携わっていただいた紀要編集委員諸氏のご尽力に感謝申し上げます。

平成26年3月